企画振興部広報県民課

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ　「知事と語ろう。10年、20年後の長野県〈次期総合５か年計画策定に向けて〉」

日　時　平成29年9月16日（土）　12:30～15:30

場　所　真宗寺（飯山市）

目　次

１　進行役あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
２　知事あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
３　グループ発表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
４　知事とのディスカッション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ11
５　知事総括コメント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ31

【参加者　20人】
公募による一般県民
長野県知事　阿部守一
進行役　鷲森秀樹　氏（飯山市若者会議　会長）

12時30分から13時30分まではグループごとに以下の次期総合５か年計画の政策の柱から一つ選んで意見交換を行っていただき、13時半から知事とのディスカッションを行いました。

○創造的な学びの推進
○産業・経済の持続的発展
○健康と安全の確保
○新しいライフスタイルの実現
○地域力（・自治力）の向上

※各グループの意見交換の内容は省略しています。

１　進行役あいさつ

【進行役　鷲森秀樹氏】
　私ども、知事が来る前にグループに分かれてディスカッションをしておりました。知事からごあいさつをいただいた後に、各グループでどんな意見が出たかを発表していただきます。そして知事のコメントを受けながらさらにその意見といいますか、発表を掘り下げて、全員でまたディスカッションをしていきたいと思います。
　それでは早速ですが、知事から、今回の「県政タウンミーティング」にかける思いや意気込みなどをお話しいただきますようお願いします。

２　知事あいさつ

【長野県知事　阿部守一】
　皆さん、こんにちは、私は長野県知事の阿部守一と申します。よろしくお願いいたします。
　今日は大勢の皆様方にお集まりいただき、本当にありがとうございます。
　県政タウンミーティングということで、今日は、私はぜひ皆様方のお知恵を借りたいということと、あと皆さんの思いを教えてもらいたいと、そういうことでこちらに伺いました。
　今、長野県は新しい県の５か年計画の策定をしているところでありますけれども、幾つかの柱を立てて、それを基本的な方針として政策を進めていきたいと思っています。
　今、検討中でありますけれども、私、一番重要な柱として考えているのは「学び」であります。これは子どもたちの教育はもちろんですけれども、私も含めた大人の学び、あるいは、今、どんどん人口が減っていく中で、産業、農業、林業、あるいは製造業、観光、いろいろな産業の皆さん、あるいは福祉や医療の職場の皆さん、こういう人たちと話をすると、皆さんどこでも困っているのは、人手が足りない、人材がいないと。そういうことを考えると、やっぱり職業人材の育成ということも大変重要だと思っております。
　そういう意味で、子ども、大人、あるいは職業、こうしたことを考えると、やはり「学び」ということが非常に重要でありますし、これは社会にとっての意味合いだけではなくて、私自身も、もし知事をやめて何か考えるとしたら、やっぱりもう一回勉強し直したいなというふうに思っていますので、そういう意味で、お一人お一人の人生や暮らしを充実させていく上でも学び続けること、あるいは、我々行政の側からいうと、学び続けられる環境をつくっていくということが実は重要だと思っています。
　そのほかに、もちろん産業の振興だったり、安全・安心の確保であったり、新しい時代に合った豊かな暮らしを実現していくと、いろいろな取り組むべき課題はあるけれども、しかしながらやっぱり全ての分野の共通しているのは、実は私は「学び」じゃないかなというふうに思っています。ここは、また、多くの皆さんのご意見をいただきながら、さらに考え方を深めていきたいなというふうに思っています。

今日はぜひ、私はそういう問題意識を持っていますけれども、皆様方、今日、私が来る前からいろいろグループに分かれて検討していただく中で、いや、こういうことが重要だとか、もっとこういうことを行政でやるべきだと、いろいろアイデアが出てきているんじゃないかと思いますので、また皆さんのそういうアイデアを伺いながら意見交換をして、ぜひ、私自身の考え方ももっともっと深めていきたいと思いますし、いつも感じているんですけれども、一人で考えているだけだと、あんまりうまく考えがまとまらないんですけれども、いろいろな人と対話をすると、実は自分のやりたいこととか、自分の希望がより具体的に見えてくるということもありますので、ぜひ皆さんにはそういう場としても使っていただければありがたいなというふうに思っています。

ぜひ有意義な会にしていきたいと思いますし、また今日は、こんなすばらしい真宗寺の本堂を使わせていただいていること、大変うれしいなと思っていますし、まさに寺の町飯山らしい雰囲気で、ぜひいい対話をしていきたいと思いますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。

３　グループ発表

【進行役　鷲森秀樹氏】

ありがとうございます。それでは早速、先ほどの意見交換のグループ発表に移らせていただきたいと思います。

今日、本当に飯山らしい場所で、いいアイデアがいっぱい出そうな感じもいたします。よろしくお願いいたします。

それでは、Ａグループの方からよろしくお願いいたします。

【Ａグループ】

皆さん、こんにちは。

私どもは、この４つの中から『健康と安全の確保』の中でも的を絞りまして、医療についてというか、医師、ドクターですね、ドクターの確保について話し合いをしまして、もう皆さんご承知と思いますが、飯山は少子高齢化の中で急病になっても、立派な飯山日赤があるんですが、ドクターがいないということで診てもらえずに、北信なり長野のほうにどうしても救急搬送になってしまうということがある。

やっぱり間一髪じゃないけれども、生死、一秒でも早く診てもらうにはやっぱり地元の飯山日赤で診てもらうのが一番だと。それにはやっぱり医師の確保、お医者さん、人口も減っていますけれども、全てにおいてお医者さんが少なくなって都市部に集中している、地方にはなかなか来てもらえない、それにはそれなりの理由があるんだろうと。そういった理由なりをよく考えて、例えば地元から医師を育て上げて郷土愛を持っていただいて、やっぱり飯山市で生まれ育ったらドクターになって、それで飯山の子どもからお年寄りもみんな診ていただくと。

産科の先生がいなければ人口も増えてこないし、まずそういうところからやるべきじゃないかなと、そんなふうに話し合いをしました。

課題はたくさんあるかと思いますけれども、ぜひ、いい建物があるんですからドクターを確保して、けが・病気をしてもすぐに治してもらえるように、なればいいなと、そんなような話をしたような次第です。

【進行役　鷲森秀樹氏】
今は医療についてですね。補足、ありませんか。

【Ａグループ】
いいですか、補足という感じで。例えば医師を増やすには今も飯山でやっていますけれども、地元から育て上げるように奨励金を出すとか、あとお医者さんとの婚活をするとか、そんなような具体的なことをして、何とかして一人でも多くのドクターを集めたいなと。
ドクターが来るには、どういうところに原因があるのかなと。都市部は待遇もいいかもしれない。お金はきっといいかもしれないけれども。それに変わる何か飯山の良さをアピールできればと思って、皆さんのお知恵を借りられればと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【進行役　鷲森秀樹氏】
それではＢグループでよろしいですか、ではＢグループ、よろしくお願いします。

【Ｂグループ】
Ｂグループでは、主に観光という点で、お話を進めさせてもらいました。それで出た結論というか、まだ結論とは言えないんですけれども、最終的に出た意見が、こういったみんなが思っていることや、やりたいっていうこととかを発表する場というか、自由に意見交換ができる場があったらいいんじゃないかっていう話になって。なぜその話に行き着いたかというと、観光という点で考えた場合に、市の立場から見ると、これからの観光は、五感で楽しむ観光が大事だとおっしゃられていて、その五感で楽しむ観光となったときに、地域との連携が必要になってきて、その点でもその地域の人と観光局の人との連携の場というのが必要だなと思って。
あと、今、私がお話をＢグループでお聞きしたときに、皆さんすごいいろいろと、今まで自分が見てきたいろいろな飯山以外の地域でのいいところとかをすごい知恵としてたくさん持っていらっしゃって、そういうことを踏まえて何をやりたいかというのを考えている方もいて、そういうことを共有する場があればいいと思ったので、この考えに行きつきました。
そのみんなが意見を言う自由に言える場があれば、私、高校生なんですけれども、高校生がもしその場に参加していればその地域を知る機会にもなると思うし、何だろう、地域について考えるきっかけにもなると思ったので、幅広い人にとっても利益というか、いいことが得られる場になると思ったので、こういう結論というか考えにまとまりました。

【進行役　鷲森秀樹氏】
　ありがとうございます。補足ですか、はい、どうぞ。

【Ｂグループ】
　皆さんこんにちは。
　阿部知事が新幹線ができる３年半前に「千年風土・豊穣の大地　信越自然郷」というのをブランド化しようと、市会議員、また県会議員、また９市町村の方を取り込まれてやってきているんですが、名前は先行して知事の思いを酌んでいるんですが、なかなかそういう形が見えてこないんですよ。なので、その形をどのようにするかといって、私の友人を含めて20名ぐらい、この地域でいろいろなことをやろうという活動をしていまして。そういう活動をしている中に、たまたまこういう機会がありましたので、自分の経験上と、またこの皆さんの意見を聞きながら、どういうふうに知事の進めている信越自然郷をブランド化、イコール世界のブランドの保養地に飯山市をさせるかというのをやっぱり幅広く聞きたいと思いまして、ここに来たら彼女が私の考えている以上のことを考えていましたので、本当に驚きました。
　ですので、知事、これから信越自然郷、盛り上げますので、どうぞご支援、よろしくお願いします。以上です。

【進行役　鷲森秀樹氏】
　ありがとうございます。補足等、はい。

【Ｂグループ】
　さっきの彼女のお話の中に出てきました観光局の者です。
　まず、インバウンドというのが大変大事なキーワードとして出てきました。バウンドというのは何々へ向うという意味の英語です。インバウンド、内側へ向う、だから外国人をどうやって呼び込むかです。観光的には外国人をどうやって呼び込むか、そういう外国人を呼び込むこと、あるいは外国人旅行客のこととかを含めてインバウンドと言っていますが、どうやってそれを増やしていくかというようなことが意見が出て、まず地域のことを知って愛着と誇りを持つことがまず大事、そのためにはいろいろな学習会とか、いろいろな出会いの場が必要だというような結論になりました。
　なぜインバウンドが必要かということなんですが、過疎化の進行、これをなかなか止めるというのは、これ実際、日本全体が人口減少局面を迎えている中で大変なことだと、実際、思っています。そうなると過疎化が進行すると地域のやっぱり活力というのは失われていくんですが、過疎化が仮に進行しても、地域に活気を保つためには定住人口が減っても交流人口を増やすことが大事で、交流人口を増やすのは何か、それはまさに観光であると。ところが、今、観光と言っても人口が減ったり、一番の旅行客層である団塊の世代の皆さんがこれから後期高齢者になっていくというような中で、どうやって観光客を増やすか、それはインバウンド、外国人旅行客をどうやって引っ張ってくるか。

国としても、今、力を入れていることで、去年、もともと1,000万人と言われたインバウンド、外国人旅行客が、去年、2,400万人になって、2020年には4,000万人にしよう、国としての目標があります。

そういう中でどうやって外国人の人にいっぱい来てもらうか、それは地域のことを知って、地域に誇りを持って、仕掛けをしっかりしていくということが大事なんですが、その一つとして、さっきから話が出ている広域観光、私たちがアメリカに行ったときのことを考えるとわかるんですが、絶対に１泊２日では帰りません。日本に来た外国人の皆さんも一緒だと思います。絶対、長期滞在するんで、そうすると、今日は飯山、明日は志賀高原、次の日は野沢温泉ということで必ず広域観光を外国人の皆さんは望む。そのために「信越自然郷」という枠組みの全体で力を合わせて、信越自然郷へ行けばいいところがあるよというのをやっぱりつくっていくことが大事だということを、そんなことでさっきのような結論になりました。

それぞれの市町村が、９市町村が自分のところを知って、地域の資源を磨いて魅力を出していきながら連携をして、あそこもあそこもというふうに楽しめるように、そのためには二次交通の整備とか、そういった本当に一丸となることが大事なんです。

そういったことを進めるためにも、五感で楽しむ観光を進めていくためにも、みんなでとにかく知恵を出し合って、地域のことをよく知って一つになろうということが大事ということで、高校生のほうからもそんなことで、私は学ばせてもらったという、ありがたい意見を聞くことができました。以上です。ありがとうございました。

【Ｂグループ】

言いたいこともいっぱいありますが２つだけ。私、まず人口の集中化なんですけれども、これはまずいことではない。余計な人間は都会へ集まる。逆に飯山はこのゆとりとスペース、空間がいっぱいある。これを逆に売りにする。人を呼び戻すにはこの空間、自然な暮らしを逆にアピールして、東京から遊びに来るようにする、それをすればいい。

もう一つは、私はこの飯山へ長野から越してきたものですから、雪国の暮らしを30年ぐらい教わりました。その雪国の暮らしの中のいろいろな知恵がある。それを、ここへ遊びに来た人の前で何気なくやったら知らなかったと、非常にびっくりしていた。だからこの飯山の暮らしの中に生きていく知恵、経験を、もっと表へ出してアピールできるといいかなと。

【進行役　鷲森秀樹氏】

はい、ありがとうございます。続きましてＣグループですね、よろしいですか。

まずグループの発表をしていただいて、その後、また、今日お集まりの方、個人個人の思いとかあると思いますので、その時間をまた少しとらせていただきたいなと思っています。

【Cグループ】

実はまだ、いろいろと問題点は出したんですが、意見のほうはまとまっているようで

まとまっておりません。

今、私たちのテーマは、『新しいライフスタイルの実現』ということについて話し合いをしたわけなんですけれども、出た意見として、まず現状でなかなか、地区の行事が多いですとか、なかなか若い人の意見が出づらいとか、そういった現状は皆さん感じているところだと思うんですけれども、そういった問題点が挙がってきました。

ただ、僕個人的には、それに関しては半分はどうしようもない部分もあるというか、今までずっとその長い歴史で来たので、これ急に若者の意見だけを通してやれといってもそれはなかなか難しい話ではあるなと思うので、その問題自体が云々ではないんですけれども、ではどうしたいいのかという話で、大分、若者目線の話にはなってしまうんですけれども、やっぱり若い人はもっと考えとか意見を表に出していかなきゃいけないなという、若い者自身がですね、そういう話が出ました。

そうすると、やっぱり若い人の人数自体の絶対数を増やしていかなければいけないので、Ｕターンしてくる若者だったり、移住者だったり、Ｕターンですね、してくる若者の数を増やさなきゃいけないなというところなんですが、やはりそこで問題は、仕事がないというようなことが、やはり問題になってくるなという話で。

今、私の周りで移住をしてきた若い方だったり、友人でもそうなんですが、東京にいると一つの企業にずっと就職をして、その仕事だけで収入を得て暮らしていくというのがほとんどだと思うんですけれども。割とこの地域だと冬はスキー場関係に勤めて、夏は農業をして、例えば、朝、新聞配達をしてとか幾つも仕事を兼務して生計を成り立てている方が結構たくさんいらっしゃるんです。もっとそういったこうワークシェアリング的な、新しいライフスタイルという価値観を、それも全然ありなんだよというのが浸透してくると、飯山に住む上で大きな問題となっている仕事がないといったような部分も、価値観が変わってくるのかなというところであります。

私も商売を営んでいますので、例えば若い従業員を雇いたいというふうには思っているわけなんですけれども、そこにはやはり仕事もなければ雇えませんし、例えば１日ずっと雇うことはできないけれども、半日だったらいてもらってもいいとか、冬は忙しいけれども夏はとかそういうのもあるので、そういったこう、雇う側もそうですし、働く側もそうですし、働き方というところでちょっと新しい価値観で、雇う側も働く側ももっとそれをしやすいような、何かサポート体制だったりとか、そういったものがあるといいのかなという話が出ました。

あともう一つ、若い人の意見を出していくという意味でなかなかこう、今、議員さんだとかそういったもので、若い人が参画しづらいということなんですけれども。例えば議会にしても、もうやっているところもあると思いますけれども、時間は日中から夕方から夜間に移すですとか、そういった若い人が思い切って政治にも参加できるような仕組みづくりというのもやっていくといいのかなと思います。

ちょっと足りないところもあると思いますので、補足お願いしたいと思います。

【Cグループ】

よろしくお願いします。

やはり若い人の意見がなかなか上司とか、上の人に通りにくいというのが先ほどから

出ていたんです。若い人がこういうことをしたいということを言っても、上の人が、よし、では俺が責任を持つからやってみろという方がなかなかいらっしゃらないと。若者がいい意見を出しているんですけれども、上の段階でつぶされてしまうと。といっても、その先に何も生まれてこない、この仕組みを何とかしていかなければいけないんじゃないかという話が出ました。

あと、こちらにもＩターンで移住してきた方がいらっしゃるんですけれども、信州で一体、飯山をどうして選んだんですかと、いろいろ理由はあるんですけれども、ゆとりがあると思っていたんですけれども、意外とゆとりがないと。なぜかというと、いろいろな行事が多い。とにかく、都会で仕事をしてきた忙しさと違う忙しさが田舎にはあると。確かにおっしゃるよう、おてんま（伝馬）、道普請とかそういう各地区の行事とか、日曜日ごとに何かがあってゆっくり休めないという意見も出ました。その辺もあり、出ていくと、若い人はやっぱり出ていかないんですね。若い人はもう面倒くさい、何でそんなことをしなきゃいけないんだという、ぶつぶつ言う若者がほとんどで、その辺を何か、開拓して、少しずつ変えていかないと、若い人もやっぱり戻ってきにくいんではないかという意見もこちらは出ました。補足になっていないかもしれませんけれども、以上でございます。

【進行役　鷲森秀樹氏】

ありがとうございました。それではＤグループの発表です。よろしいですか。はい、お願いします。

【Dグループ】

それではＤグループの発表をさせていただきます。

私たちが選んだのは、『創造的な学びの推進』ということで考えてみました。まず一つは、近隣なんですが、下高井農林高校があります。せっかくいい高校で、農業を専門に学んでいると想像しています。やはりこの学校をもっともっと県の大きな力をいただいて、全国からここへ学生が来られるような、そういう高校にしていきたいと思います。

それには、一つは、飯山市で今まで何十年という古い歴史の中でアスパラという産業がありました。今はアスパラは病気でどんどんやめてしまおう、そういう農家が圧倒的に多いです。やはりこういったものも、農林高校はもっともっと力を入れて、立ち上がって、大学の専門の講師にご指導いただきながら、やはりこの病気を治していく。今までは、全部、農協に頼っていました。農協も非常に大きな団体になっちゃいました。余計、手薄になってきていると思います。ですから農林高校の先生方、またそういう専門家の大学の教授なり、やっぱりそういう方からご指導いただきながら、やはりこの病気を何とか根絶する方法を見出してほしい。そして、また新たな飯山特産の農産物が栄えるような、そういう町にしていきたいと思います。

それと飯山は非常に空気はいいし、水もおいしいし、お米もおいしい。ただ、皆さんが思っているのは、雪が降るから住みにくい、嫌だ早く出ていこうという方の意見がかなり多くあります。やはりそういったものは、雪が降るからアスパラの株はどん

どんどんどん、一滴一滴の水を蓄えながら株が大きく成長するんだというふうに思っています。また、寒暖の差が激しいから、甘いおいしいアスパラができるというふうに私も思っています。そんなことを考えながら、ほかにも飯山は土地が安いんです。ぜひここに大学校を設立するように、県のほうからも働きかけてほしい。若者がどんどん来ます。新幹線が通っています。大学を設立すれば地域の活性化になります。やはり大学を、大きな施設を設けていただいて、それで飯山市を活性化したいと思います。

もう一つは文部科学省のほうで、県もそうでしょうけれども、各学校に地域とのコミュニケーションをとりなさいと。やはり学校の先生は忙しいと思います。それを補うのは、各地域のボランティア活動だと思います。そのボランティア活動を広めようということで、私自身もかなりの小学校に足を向けて行きました。だけど、飯山市の学校からは、ボランティアを受け入れてくれる学校がありません。中野のほうで延徳小学校というのがあります。そこは、何か文部科学省のほうから推進された指定校になっているそうです。そこからはいろいろな行事の内容がどんどん来ています。やはりそういったことを考えますと、学校側で取り入れてないのか、または通達がしっかりしてないのか、その辺が私としては疑問に思っています。

そういう学校のこともしかり、また学校ももう勉強、勉強で忙しいでしょう。そうすると、子どもたちがカタツムリもわからない、カマキリもわからない。カブトムシも、生きているんだか死んでいるんだかわからない、突っついてみて初めて動いた、あっ、ではこれ生きているんだというような判断しかできない。もっともっと、自然豊かな地域ですから、そういうものも自分で採りながら、また自分で毎日を観察しながらやっぱり勉強していく。これは危ないから触らないで、触らないで、親が全て止めちゃう。これにかみつかれるのは嫌だからだめです、あれがだめです。いいじゃない失敗しても。失敗したからこそ学ぶんじゃないのと、私は思います。

皆さんが、お子さんに対してともかく失敗させない、失敗させない、あれをしなさい、これもしなさい、そういうことを常に話しているから、家庭の中でもやはりできないんじゃないかな。それで、今、東小学校ではあいさつをしましょうということで、学校で課題にしています。そういったものは、僕も暇ですからいつも、朝はおはよう、声が小さい、もっと大きい声であいさつを交わしています。帰ってくれば、お帰りなさい、今日、学校楽しかったかい、そういう言葉をかけます。変なおじさんだけれども、子どもたちに嫌われてないからいいかなというふうに思っています。

それと、あとここにも高校生がいらっしゃいます。やはりその高校生の切実な意見を聞いてください。

【進行役　鷲森秀樹氏】

いい振りが出ましたけれども、はい、皆さんどうぞ。

【Dグループ】

私が出したのは、こういう機会をもっとほしいということで、学校の中にいるだけだと、どうしてもかかわる大人って先生たちだけで、学校っていうその中にずっといるだ

けで。どうしてもこういう機会がないから若い人、私たちは飯山のよさとかに気づかないまま出ていっちゃうのかなって思っていて。私は飯山が好きだから知らないのはもったいないと思うし、だからそういうのを知るためにもこういう機会っていうのは大事だと思います。

あと、その地域のよさを知るっていう面では、家の中に、今、携帯とかあるから、どうしても家の中に閉じこもっちゃいがちなんですけど。実際に歩いてみて何か地域のよさに気づくとか、地域の歴史を勉強するだとか、そういうことがやっぱり必要なのかなって思います。

【Dグループ】

隣の中野市に住んでいる者なんですけれども、飯山市さんってすごい森林セラピー、森が素敵だというような話を伺っておりまして、そういう意味では癒しの学校という形で、どうしても学校になじめなくて行けなかったりとか、自閉症や発達障がいということを抱えてちょっと集団の中ではつらい思いを抱えている人たちに対して、そういったような伸び伸び生きていけるような自然豊かな環境の中で、そういった子たちって絵がうまかったりとか、電車のことをすごくよく知っていたりとか、そういった子たちがいるというので、そういう意味でそういった伸び伸びと、あまりストレスのかからない環境の中でそういった才能を伸ばせるような、特色を生かした学校というのがつくれたらいいんじゃないかなというふうに思っております。

【Dグループ】

ちょっと今までずっと感じてきたことなんですが。先ほどの方がおっしゃられたように、下高井農林高校が存続の危機にあります。これを何とかならないか、信州大学に農学部というすばらしい大学があります。それから県でやっていらっしゃいます農業試験場、これもすばらしいところもあります。これをもうちょっとこの北信、雪国のほうへ目を向けていただけたらいいなと、そんな感じでいるんです。

先ほどアスパラの話も出ました。かつて20年、30年ぐらい前までは日本一のアスパラの生産地でございました。それが今、ほんのわずかしか出荷できない。確かに行政の市のほうでも、新しい畑に一株幾らという補助金を出していていただいているんですが、まず一番は土壌検査なんですよ。これが簡単にできるようになれば、もっとすばらしい畑ができるんではないかなと。そうしたら、農家の生産も上がり、所得も上がり、この地域が活性化されていく、まず原動力になるんじゃないかなと。

私も昔はアスパラの販売に遠くは鹿児島、北は仙台のほうまで売り込みに歩いていた仕事をしていたものですから、つくづく感じるんです。この雪国の一番適正な農作物は何だといったら、やっぱりお米とアスパラなんです、飯山地区は。だから、そのアスパラをもうちょっと行政で力を入れていただいてやっていただければ、すばらしいこの飯山、もうちょっと活性化できるんじゃないかな。

それとさっきも言いました下高井農林高校がもっと特徴ある高校になれば、全国から農業を学びに来ると思うんです。そして、それも人口増にもつながっていきます。そん

なことをひとつ、ぜひお願いしたいなと、つけ加えることはそんなところでございます。

【Dグループ】
　ぜひ飯山にも大学、またそれも飯山独自の大学、４年制大学でなくても結構です。専門学校でも結構です。やはり飯山に根づかせる、そういう大学の設立を切に要望いたします。

【進行役　鷲森秀樹氏】
　はい、今日はファシリテーターということで補足しちゃいけないんですけれども、さっき森林セラピーという話があったのでちょっと補足させていただきます。
　森林セラピーって聞いたことはあるけど、行かれたことはありますか。私、とあるツアーで森林セラピーツアーに行ったんですけれども、今、何が起きているかというと、その治りにくい、ここで言っていた自閉症とか、そういった病気の方々が実際にこちらに来て数日間過ごして、プログラムをこなしていくと、本当に治るというか、改善されてまた戻るということが結構多々あって。私も、それ実感しまして、すごくいい場所なんで、ぜひ心を落ちつかせるときとか、ぜひ行ってみてください。
　それでは、今ほどＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄグループ、総合５か年計画の施策をもとに話を出していただきましたが、ここから、では知事、感想を。

３　知事とのディスカッション

【長野県知事　阿部守一】
　どうもありがとうございました。
　あとは皆さんと対話していきたいと思います。
　皆さんのお話を聞いていて、何か気づきませんか。私、皆さんの言っているテーマって、みんなバラバラな感じですけれども、結構、一緒にやったほうがいいなという話がいっぱいあると思って実は聞いていたんです。
　さっき若い人たちから、こういう意見交換の場がもっとあったほうがいいという話がありましたが、私も全くそう思っています。でも、行政が皆さんの税金を使ってうちの職員が来てやったら、こんなコストの高い会合はないですよ。本当は、皆さん同士が自主的に集まれば、あと私だけ呼んでもらえればもっと安上がりにできます。別に私を呼んでもらうのにお金は要らないですから。まず何かそういうことは、ぜひ自主的にやってもらいたいなというのが一つと、我々行政もどういうことをしなきゃいけないかということも感じています。またちょっと後でもお話ししたいと思います。
　それから、とかく行政が一番ありがちなんですけれども、縦割りの発想はだめですね、縦割りの発想は。例えばいろいろクロスオーバーしていると思っているんです。
　例えば県と市、医師確保とその地区の若者の発言権がないみたいな話って、私、実は全然関係なさそうだけれどもすごく関係あると思っていて。都会からお医者さんを呼んでこようと思ったら、暮らしにくいところなんかに絶対お医者さん来ないですよね。若

いお医者さんを呼んできたら、俺、この地域では何も発言できないななんていう環境があったら来るわけないですよね。だから、例えばこのＡとＣグループが語っていた内容というのは表面的には全く違うんですけれども、私は実は一緒に考えている点が多いんじゃないかと思って聞いていました。

このＢとＤですかね、観光と学び。観光と学びは全く違うような雰囲気もあるんですけれども、さっきもお話があったように、観光は、今、ＤＭＯをつくってやっていきましょうという話がある中で、ＤＭＯって何といったら、要は観光というのはいろいろな人が関係しているわけですね。宿泊関係の人もいれば、交通関係の人もいれば、お土産屋さんもいれば、行政もいるだろう。みんながバラバラにやっていると、とてもしっかりした観光地域づくりはできないんで、そういう、何というか、行政とは違った組織をつくっていかなきゃいけないというのがＤＭＯですけれども。

それというのはやっぱり、今、大学とか高校の話がありましたけれども、学びの話とすごくセットで考えていかないと、先ほどもお話もあったように、観光地、いろいろな観光地にみんな行って、いろいろないい事例は個々人では持っているんですよね。それを、ではどうやってうちの地域において具体化するかということを考えたときには、やっぱりそういうことができる人材、あるいはつなげられる人材、あるいは世界の先進的な知見をもっと飯山に、あるいは北信に持ってこられるような人材が必要なんで、そういうことを考えると、その大学とか高校とかそういう学びの場であると同時に、知の拠点が私は必要だと思いますので、そういう意味で、学びは実はどこにもみんな関係する話だと、冒頭、私、申し上げたとおりですけれども、実は観光の話と大学みたいな話というのは、実はセットかなと。

多分、大学も何でもいいという話じゃなくて、やっぱりこの地域にとって重要な分野、さっきの話だと、例えば農業とか観光とか、そういうことに参画してもらえるような先生がいるとか、そういうものに関係がある分野があるところじゃないと、全く何かうちの地域と関係ないようなところが来ても、困っちゃうところもあるかなと思いますので、そういうことを考えると、ここがセットだなと思って伺っていました。

ちょっとこれは私の感想でありますけれども、そういう意味で、私はいつもこういう対話をやるときに、冒頭、言っているのは、まずあっち側、こっち側はやめましょうと。私は要望を受ける人、皆さんは要望する人というのはやめましょうと言っているんで、今日はあまりそういう話はなかったんですけれども。

私も知事ですから、知事としてできるものは確かにいっぱいあると思うんです。いっぱいあると思っていますけれども、でも知事とか県だけではできないことも逆に山ほどあるんで、そういう意味で同じ目標を目指して一緒に考えていきたいなというのが私の思いですので、ぜひちょっとそういうスタンスで少し話を進めたいと思います。

まずは医療ですね、医療並びに医師確保。これ県も、先ほどもお話あったように、就学資金の貸付制度をやって、これから県が大学で学ぶのにお金を貸した人たちが、少しずつ増えてきます。増えてくるんですが、今の地域の需要を全部満たすほどにはなかなかいかないだろうなというところもあって、これ我々にとってもその医師確保、あるいはもうちょっと言うと、保健とか医療の人材全体が、さっき言ったように人口減少社会

で少なくなっている中で、片方で高齢化が進んだり、あるいはさっきの出産の話もありましたけれども、医療のニーズというのはどんどん広がっていく中で、医療関係者の確保というのは重要だというのは、まずそこは全くの共有だと思っています。

その後、どうするかというのは、さっき言ったように、県も例えば就学資金の貸付とかいろいろやっています。私は、さっきのその暮らしの話とセットで、さっきちらっとおっしゃっていましたが、何か合コンの話とかあったじゃないですか。何というか、少しほかの地域ではやらないこととかをもっとやっていかないと、日本全国どこでも医師確保は大事だとみんな思っているし、みんな同じようなことをやっているので、それだとなかなか目立たないかなと。医療界で何か北信地域をもっと目立たせることを考えないといけない部分、我々県は地道なこともやっていきますけれども、考えたほうがいいかなと思うので。そういう意味で、もう少し何か具体的な提言があるのならしてもらったほうがいいなと実は思っています。

ここは、さっきの暮らし方の話と一緒に、我々県ができることも最大限やっていきますし、ぜひ、地域にとってもウエルカムですよと、お医者さんに来てもらうのはウエルカムですよと。あるいはうちはこんなスタンスでお医者さんを迎えるんだって、何か特色ある旗を立ててもらうとか、何かそういうものでコラボレーションできるといいなと思っていいます。ちょっと具体的に意見が出ていれば教えてもらいたいなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

【参加者】

知事さんのおっしゃるとおりかもしれないですけれども、その具体的な秀でるものがあると言えればいいんですけれども、ちょっと今現在では。

【長野県知事　阿部守一】

ないですか。僕は例えば飯山に新幹線できてどういう感覚で皆さんいらっしゃるのかもちょっと教えてもらいたいんですけれども。

こんなに新幹線の駅もあって、新幹線の駅のすぐそばに病院があって、そのほかの山の中で、鉄道のない、高速道路もない地域からすれば、超恵まれている地域なんです。超恵まれているんで、これは我々もやらなきゃいけないんですけれども。私は全県、見渡さなきゃいけないので、例えば北信はやっぱり北信の皆さん、地域振興局をつくったので、地域振興局長にももっと医療の話にも関与させようと思っています。

何か皆さんが、地域の皆さんが、もちろん県もしっかりやりますけれども、皆さんが、ではどういうことを生かしていこうかとか、何を発信していけばいいのかというのは、私が考えるより、多分、皆さんのほうがこの地域のことをわかっているでしょう。そうしたら私に教えてもらって、もっとこういうことで、飯山日赤の医師確保は売り込めというふうに教えてもらいたいなと思っているんです。

【参加者】

「ドクターのストレスが癒される町　飯山」、森林セラピーもあるので。

【長野県知事　阿部守一】
　どうぞ、ちょっと、ではここからはもう班なしで。

【参加者】
　お医者の先生が、この雪国、飯山にあまり来ていただけないのは、お医者さん、学会の発表会とか研修会とかいろいろございまして、それに行くのに不便、ここから行くのが不便。都会にいればそういう学会やそういうのにすぐ出られる。それで暮らしやすいということがあるんだそうです。
　飯山としては、新幹線ですぐ行けるということをアピールする。東京にある医科大の学生たちに、飯山にいても中央の学会にすぐ出られるよということをアピールしたらいいと思います。

【長野県知事　阿部守一】
　では、どうすればここに医者を引っ張れるかというアイデア募集ということで、ちょっと何か皆さんどうですかね。

【進行役　鷲森秀樹氏】
　どうでしょう、何か、地域で婚活イベントをやっている方、こちらにいらっしゃいますので。

【長野県知事　阿部守一】
　今さっきの、合コンをやったりとか、この地域の結婚を希望している女性を集めて、東京とか大阪へ行って、お医者さんと合コンをやるっていうのはだめですか。
　そんなものに女性を使ったら女性蔑視になっちゃうかもしれないけれども、何かその結婚したい人たちが、その結婚する相手方としてそういう人を選ぶっていうのは、一つ、やり方としてはあり得るかもしれないですよね。ただ、あんまり行政がそんなことをやりだすと何だという感じはあるんで、それも皆さんでお金をかけずにやれる話じゃないかなと思いますけれども。
　例えば県がかかわっているような大学に話をして、合コンしたいというチームがあるんだけれども、ちょっと学生を出してくれませんかと言えば、そういうことぐらいは我々できるかと思いますので、あと何かありますか。

【参加者】
　無料で飯山へご招待する。それこそ信越自然郷、いいところを見てもらうとかですね。

【参加者】
　これ観光にもいろいろと絡む、結局、最後はＩＴなんです。私も、昨日、ちょっとある書物を読んで、有名なある大学の先生がこういう講義をやりますといってオープンキ

ャンパスみたいにというふうにやったんですが、さほど集まりません。その教授の中にいる准教授とか講師がＳＮＳ、ツイッター、フェイスブックで、ただつぶやきで、あるよと言った瞬間に、うん、行く行く行く行くというのが５倍に増えたんです。

だから、やっぱり、飯山市の云々関係なく、とにかくお金を使わないアイテムというのは、ＩＴ、パソコンのＳＮＳを使えば何もかも、いろいろな意味で人を集めようと思えばそういう、何日から何日までのくくりで、こういう学会をやるのでもしよかったら来てくださいというふうにやれば、知事もいろいろとやっているんでご存じなんですけれども、そういうのでいいと思います。

【長野県知事　阿部守一】

ちょっと話があっちこっちへ行っちゃうとあれですけれども、例えば学会に出づらいから東京がいいっていうのは、学会を呼んじゃえばいいですよね、飯山にね。

僕は、例えば長野県はもっといろいろなコンベンションを積極的にやりたいなと思っていますし、去年、軽井沢でＧ７の交通大臣会合やったのは、サミットとか交通大臣会合を呼ぶことが目的というよりは、やっぱりそういう国際会議をやれる県だというのを、ちょっとはっきり出さなければいけないということで誘致したんですけれども。ただ、そのときに、県内のいろいろなところも検討したんですけれども、なかなか例えば、当時は交通大臣会合どころか首脳会合を持ってこようと思っていましたので、首脳会合を開けるような場所というのは長野県、率直に言ってあまりない。交通大臣会合でもあまりない。これというのはやっぱり観光県ではあるんですけれども、まだまだ例えば、昔、修学旅行とかスキーの合宿をいっぱい受け入れていた長野県の観光のスタイルというのが、十分変わりきれてなくて。

ちょっとあんまりいろいろ言うと語弊があるかもしれないですけれども。例えばさっきインバウンドの話がありましたけれども、インバウンドのお客さんを呼ぶときに、私は畳の部屋のほうが好きですけれども、畳の旅館じゃだめだっていうリクエストがかかることがほとんどだと思います。ちゃんとした会議をやるときですよ。その宿泊施設は畳の部屋でいいですかって、ノーと言われることが多いと思うんで、そうするとやっぱり、さっきの話にもつながってしまうんですけど、例えば海外の人も交えたその学会を何か持ってこようというときに、ではそういう場所があるのか、キャパがあるのか、収容施設があるのかということを考えていかないと、実はいけない話で。

そうすると、実はこの医師確保の話とかもぐるぐる回っているんで、やっぱりそうやって総合的に考えなければいけないし、私はやっぱり観光の話は、そこで暮らしている人たちが、本当にそこの暮らしが楽しいと思わなければ人は絶対来ないと思うので、飯山なんかいっぱいやれることがあるだろうと思っています。いっぱいやれることがあるんだろうと思っていますし、ぜひ何かそういうことをもっとどんどん発信してもらうと、長野県の北信は楽しそうだぞとなれば、医者でも誰でももっともっと目を向けてもらえると思うので、多分、結構、そこのところが本質的な話だろうなと。

信越自然郷は、私じゃなくて地元の市町村を中心に、今、やっていただいている話なんで、ちょっとそこ、誤解があるといけないんですけれども。我々は、もちろんこの信

越自然郷だったり、飯山だったり中野の取組は、一生懸命サポートしますし、発信していきます。ただ、私は知事なんであんまりこういうことを言うとよくないかもしれないですけれども、例えば伊那谷の人たちにも言っているのは、県が何かしてくれるなんて思っていたらだめですよと。自分たちの地域をどうしたいかという話がなければ、私はもう最大限、県ができることは応援したいと思っていますけれども、地元の人たちがしたくもないものを私が勝手に決めて、いや、ここにはこれがいいですよなんて言ったって、全然、そんなのやる気がしないと。だから、ぜひちょっとそこは、どうやって医者も含めた人がひきつけられるのか、どうすれば観光客が増えるのか、そこは皆さんがもっと知恵を絞って、自分たちも楽しい地域にするし、よそから来てもらえる観光客も、あるいは移住してくれる人が楽しい地域にするには何が必要なのかというのを考えることが必要で、お医者さん一人呼んでも、多分、嫌なところだったら出て行ってしまいますから、そこは全部に共通する重要な問題ですよね。

それはさっきの若者がものを言えないというのも、結構、長野県、共通している課題だなと思いますし、若者だけじゃなくて、昨日も農業委員の協議会の皆さんと少し話しましたけれども、農業委員の女性は極めて少ないと。もっと県から農業委員の女性を増やせと言ってくれとか言われている状況ですけれども、やっぱり何かそういう地域社会のあり方というのも考えていかなきゃいけないですねと。ちょっと皆さんからいろいろご意見をもらえればと思いますけれども、どうですかね。

僕は、ちょっと若者の声が通らない社会というのは、長野県にとっては結構、致命的な話で、かつ県があまり手も足も出しづらいところなんですけれども、どうすれば変えられると思いますか。さっき若い人たちがもっと意見を言わなきゃいけないという話もありましたけれども。

【参加者】

はい、そうですね。なので、さっきも言ったようにある程度、どうしようもないところもあるんで、これは誰がどうしろということじゃなくて、若い人自身が、ここで自分たちがこう、この先この地域を担っていくんだという意識をもっと持って発言をどんどんしていかなければいけないんだろうというふうに思っているんですが。

いかんせん絶対数が圧倒的に少なかったりするので、そういう意味では一緒に、同世代の人の数をもっと増やしていきたいなというような感じになりまして、同級生で東京のほうに暮らしている子やなんかも、長野には帰ってもいいんだけれども仕事がないんだよなというのは必ず、それは本当に理由かどうかちょっとわからないんですけれども、必ずそんなようなことがあるので、難しいですね、この辺。

【長野県知事　阿部守一】

今日は若い人たちだけじゃなくて、年齢層の高い人たちもいるので、高い人たちに言われている話なんで、ちょっと反論してもらって。

いや、そんなことはないと、ちゃんと機会を与えているのに何を言っているんだとか、あるいは、いやそのとおりだから、これから変えなければいけないっていう感じ

なのか、どうなんですか。では地域で、地域の顔役の人って誰かいますか。もうちょっと年齢が上の人、今、この若い人たちの声がなかなか届かない、反映できない地域社会になってしまっているんじゃないかというものに対しての少し反論でも、賛成意見でも、何かどうなんですかね、どうぞ。

【参加者】

地域でも年寄りがまだまだ現役で頑張っている人も多いです。やっぱり慣例で、やっぱりあの人に言ったらうまくないんじゃないかな、この人に言ったらちょっと角が立つな、やはりそういう遠慮の仕方が多いと思います。

私は生まれは飯山で東京にずっといまして、小学校５年のときに行きまして、戦争で疎開しまして、それで私が生まれました。それからまた東京でずっとやっていました。それで60を機会にまた飯山へ帰ってきて、それで、今、生活しています。

やはり地元の話を聞いていますと、いろいろな面で、まあ年寄りが牛耳っていて話にならない。だから、私は別にその地域の人と因果関係も何もありませんから、私はバンバン言います。そうするとうるさい。うるさくたって私が言うことも聞いてくれと、今、そんな話でいろいろやっていますが、非常に難しい。

【長野県知事　阿部守一】

ありがとうございます。そこ多分、地域でＵ・Ｉターン者を受け入れるとか、移住してくる人を増やそうというときには、結構、重要な話だと私は思っているんですけれども。ここの地域内の若者と高齢の方とか、さっきもっといろいろな人とこういう場があったほうがいいとかありましたが、そういうのを話す場はないんですか。もうちょっとうちらの意見も聞いてくれとかというような。何言っているんだ若造のくせにとか。そういう率直なやりとりはあるんですか。

どうですか、ちょっとではファシリテーターに。

【進行役　鷲森秀樹氏】

基本的にそういうふうに意見を、我々から上の世代の方と意見をぶつからせるということはあんまりなくて、自分たちで若い人たちが考えたことをやるというようなことはしていますが。

【長野県知事　阿部守一】

これちょっと私もほかのところでも同じようにやっているんですけれども。結構、その地域社会をもう少し何とかしなければいけないという意見はほかでも出ているわけですよね。だから北信とか飯山だけがちょっと問題が多いということではないと思うんです。

やっぱり、今日も高校生が来てもらっていますけれども、ちょっと放っておくと、さっきの縦割りと同時に世代的、お年寄りはお年寄りばっかりで集まって、若い人は若い人たちだけが集まって、お互いに文句とか愚痴ばっかり言っていて、結局、何か世の中

よくならないということになりかねないなと思って危機感を感じているんです。ただ逆に、今は、お年寄りの世代と、私ぐらいの世代と、高校生の世代とでは見えている世の中が、実は相当違っているんじゃないかと私は思っています。というのは、どんどん技術革新が進んで、例えば、今、私なんかスマホを持ち歩いて、ほとんどこれで仕事をしてしまっているような部分もありますけれども、でも私はこれ、社会人になってからこんなものを動かすようになりましたし、私が社会人になったころはまだ固定電話の社会ですから、生まれたときからパソコンがあった世代と私は多分、また意識が違うと思うし、私とまたそのもっと上の世代の人とも育ってきた社会の環境というのが違うんで、またちょっと、同じものを見ても見え方は違っているんじゃないかなというふうに思っています。

ただ、それ放っておいて、何かお互いの世代が、何かあいつはわがままだとか何か頑固だとかって言っていても、多分、何も進まないんで。実は私はこれ、見え方とか価値観が違っているのは、私、さっきの学びに結びつけて考えれば、実はお互いに教え合える、お互いに学び合えることが実はいっぱいあるんじゃないかと思うんですよね。例えば、私なんか正直に言って地域社会の経験というのもあんまり役立たずのほうですけれども、例えば山へ入って薪を切ってきたり、食べられるキノコと食べられないキノコを見分けたり、そんなの私の世代ではできません。できる人もいますけれども。それはやっぱりそういう何か昔からの生きる力とか生きる知恵とか、やっぱりお年寄りの人たちの方がいっぱい持っていると思うんですね。

逆に、高校性とかという若い世代の人たちは、もうスマホを使うのが当たり前、プログラミングをどんどんやったりして、今の技術をどう生かせば世の中がよくなるかというのは、多分、私の数倍わかっているし、見えていると思うんですよね。そうすると、結局何かお互いの世代が何か不満を言い合うのではなくて、お互い世代の意識が違えば違うほど、差があるということは学び合えることがいっぱいあるという話なんで、何かそういうフラットな学びの場を地域でつくっていけば、さっきの、もっとこういう場があればいいねというのも、ただ漫然と集まってやるのではなくて、例えば若い世代が、例えばこうやってパソコンを操作すれば、知らない人ともこんなにすぐ連絡をとれるんですよというようなことをお年寄りの人たちに教えて、さっきカブトムシの話とかがありましたけれども、こうやって育てるんだとか、キノコはこうやって見分けるんだみたいな話を教えてもらうとかですね。

何かそういうことを通じて、やっぱり人と人っていうのはお互いの違いを尊重しなければいけないと思っているんで、みんなすぐれたものを持っているわけですよ。みんな人に何か一つでも教えられるものというのは確実に絶対持っているはずなんで。そういうことを伝え合うことによって何か、お年寄りは頑固な世代、若者は何か言うことを聞かない世代みたいな発想じゃなくて、お互い尊重して学び合うことで世代間が交流すると、もっともっと地域がいい方向に進むんじゃないかなというのが私の思っていることなんですけれども、どうなんですかね。

【参加者】
　今のお話をお聞きして、私、こういう学びの場というのを、去年、十日町に行って見させてもらったんですけれども。十日町は、結構、50代ぐらいの方とかもいらっしゃったんですけど、確かにこの場ほど世代の種類が豊富な場所はなくて、さっきおっしゃられていた何か上の人に意見が通りにくいとかも、その上の人の意識とか下の人の意識がもっとこう寄り添うというか、それによって改善されるんじゃないかなと思っているので、さっきおっしゃられたように本当にいろいろな世代の人が、その世代のいいところを吸収し合うような場ができればいいんじゃないかなと思いました。

【長野県知事　阿部守一】
　そうね、そういう場は、ちょっと私も何かそういう場をもう少しいろいろなところで、みんなでつくってもらうといいんじゃないかなと思うんですよね。ちょっとそれだけは、私も何というか、いろいろなところでいろいろこうやって対話していて感じている一番大きな話ですね。
　それから、ちょっと観光の話でいくと、さっきいろいろお話あって、さっき言ったように、そのインバウンドのお客様を含めてどんどん人に来てもらえる地域にするには、やっぱりその地域に住んでいる人たちが、うちの地域はいいところだと思っていなければいけないし、その人口流出の要因も、例えばうちの地域は何かこんなに嫌なことがいっぱいあるとかですね、こんなに暮らしにくいなんて、年中、子どもの前で言っていたら、子どもはみんな出ていっちゃうのは当たり前なんで、それはやっぱり何か、飯山とか北信というのは雪が確かにいっぱいあって大変だけれども、それも表裏でいい面もあるし、もっとポジティブにアピールできる要素はいっぱいあるし、楽しい暮らしはできているような気がするんですけれども、どうなんですか、どうぞ。

【参加者】
　今、おっしゃるとおりだと思います。私は例えば県の観光機構の皆さんとか県の職員の皆さん、国の皆さんが来たときに、キラーコンテンツという必殺のコースがありまして、まず寺町、お寺、20幾つそこに並んでいます。よくこんなにお寺並んでいて、檀家の場合、並んで大丈夫かなと心配になるほどお寺が並んでいて、雪国の小京都と呼ばれる町並みがあります。それに並行して、仏壇の製造販売店、仏壇通りといわれるいっぱいの仏壇、これ、国の伝統工芸品に指定されています。それを見ていると思い出すんですけれども、本当によくここまで手の込んだものをつくっているなというぐらい、見ているみんなに満足してもらって、それで人形館で、最後、見てもらう。これで、ほとんどの人が満足してもらえます。それをまず私たち知らなきゃいけないと思うんです。飯山市民の皆さんがちゃんと歩いて、そのコースを回ってもらう。回ることの気持ちのよさ、それをまず自分で知らなければいけない。あとスキーも、自分で乗らないのに勧めるといっても、これだめだと思うんですね。自分たちもスキーに乗る。そうやって地域の何が楽しいかというのをまず自分で知っているということが大事だと思います。
　そうやって見ると、例えば飯山には日本一と言われる菜の花畑があったり、幻のそば

と言われるいわゆる富倉そば、おいしいそばがあります。世界の食味コンクールでも一番に評価された世界最高米と言われているおいしい米と、蛇口からミネラルウォーターが出てくるようだというおいしい水が出るところです。これは全部雪の恵みで、３メートル、４メートルも降る雪が地下にしみ込んでいく、それがおいしい米をつくったり、おいしい水になるという、雪の恵みということもあります。

そんなように、あと、最初の話の中で出たんですが、雪片づけだって観光資源になる、豪雪も観光資源になる、もしかしたら空き家も観光資源になる、ものづくりも観光資源になるし、商店街も観光資源になる。だから、さっき知事さんがおっしゃったみたいに、縦割りじゃなくて横の連携が必要なんだということで、この横の連携。それと、今、長野県、日本一の長寿県ですね。まだ健康寿命という点では１位ではないですけど、これも高いですね。健康だって、これ観光資源だし、安心とか安全も観光資源。そういったものが全て観光資源になる。

そういう中で、今、ヘルスツーリズム、健康というのをテーマにしたツーリズムということもやっています。こんな中で、お医者さんに来てもらうというところにもつながっていくと思いますし、実は新幹線の駅ができて一番効果が出てきているのは、観光もそうなんですけれども、観光よりも移住者がすごく増えましたね。首都圏とある程度つながりを持ちながらやっぱり２時間未満、１時間20分ぐらいで行けるというのはとても大きなことで、そういうところも効果が出ているんですが、住みたい町はやっぱり訪れてみたい町でもあると思います。

そういうところでもっと、さっき言ったみたいな観光資源にしっかり目を向けて、地域のことを知って、地域に愛着と誇りを持って、次に大事なのはやっぱり仕掛けだと思います。そういうものを地域を巻き込んだ旅行商品とかそういったものをつくっていく。

最後に何が大事かというと、やっぱりおもてなしの心だと思います。この間、「風っこ号」とか「おいこっと」とか、「野沢号」とか来たときに、飯山駅とかでお手振り運動という、一般の市民に来てもらって手を振っています。そうしたら、森宮野原に着いたら、こんなことは初めてだといって喜んで、これ地域振興局の皆さんが一生懸命やってくださったんですが、そういう感想を聞いて、またうれしく思ったんです。そのもてなしの心がやっぱり一番大事ということで、人情ですね。飯山は雪と情けの深いとこということで、心がやっぱり最後は一番決め手になると思います。

みんなでお迎えする、この気持ちを持って観光振興をしていく。それで観光によってものづくりも、みんな振興、豊かな地域をつくっていく。雇用も生み出されるのではないかというふうに思っています。観光による地域づくり、観光地域づくりというのを、一緒に手を携えて頑張っていきたいというふうに思っています。以上です。

【長野県知事　阿部守一】

どうもありがとうございました。

【参加者】

雪国を観光資源で人を呼ぶ件で、私、屋根の雪をおろしていまして、実は向こうの屋

根にお年寄りが上ってきまして、見ていましたら、お年寄りのほうが早く終わったんです。何でかなと思ってよくよく観察したら、シャベルの使い方が私よりもうまいと気がついた。だから飯山で例えば雪堀合戦をやれば、お年寄りが喜んで出てきて優勝しますから、お年寄りの活躍もできるし、都会の人も驚くし、雪を掘るっていうのがわかると思うんですね。こういうちょっと意外なイベントをぜひ企画していけるのではないかと。

【長野県知事　阿部守一】

なるほど。雪はもちろん暮らしの中では大変な部分がたくさんあるわけですけれども、観光の視点で考えれば、うんと使える材料だと思うんですよね。

東南アジアから来る人なんか雪を見ただけでうれしいと。まして、雪がもう背の高さほども積もるんですよということを言うと、みんな腰を抜かすほど驚くわけですよね。やっぱり何かそういった、もっともっと何か克服するべき対象でもあるけれども、実は利用していかなければいけないものでもあるなというふうに思います。どうぞ。

【参加者】

ちょうど私が言おうと思った思いを知事さんが言われたんです。「冬」イコール「スキー」というのがあったんですが、昨年、シンガポールの女性のとたまたまフェイスブックで友達になりまして、それでは飯山へ来るというふうな感じで本当に来ていただいて。彼女が何を喜んだかというと、まず屋根の上に雪があると。30～40センチ積もっている。それだけでもうワンダフル、アメージング。今度は雪をなめてうーんという感じ、甘いというイメージがあって、白いので。雪をなめたり雪玉にしたり。あとツララをなめていいかと言われたんで、きれいなところをとってやったり。

そういう体験があると、ここら辺はスキーというのもありますけれども、信濃平で、今、スノーモンキーより「かまくら」がものすごく注目されていて、インターネットを使って海外からお客さんを誘客させるというのをいろいろな方から聞いているんで、それを体験するというようなものをつくりながらやりたいなと思ったり。だからそれを売るには何かとすると各予約会社の中に、各施設・ホテル・旅館・民宿が、冬はこういう遊び、スキー以外にもこういうのをやるよというのを各社一緒に合同でやれば、スキー産業じゃない雪遊び産業というのが、多分、生まれると思います。我々もそういう仲間がちょっとおりますので、この冬、ちょっと仕掛けてみたいと思います。以上です。

【長野県知事　阿部守一】

私、今まで皆さんと話をしていて感じているのは、あんまり県が出る幕じゃないと思っているんです。鷲森さん、若者会議をやっているんでしょ。何かもっとこういう場を自分たちでつくって、もっと自分たちでできることはがんがんやってもらって、その中で、とはいえ、ここは県にやらせなければいけないということを提案してもらいたいなと思っているんですけれども、どうですか。

【進行役　鷲森秀樹氏】

議論をずっと聞いていまして本当に、確かに少しずつなんですけれども、この飯山市若者会議もそうですけれども、若い人たちの声というものが地域、あるいは行政に届けるような、道というかルートができてきたのかなというのがここ２、３年で感じています。うちら若手が６人、７人ぐらいで祭りをいろいろやっていたりとかしているんです。

地域の方々のお話を直接聞いてはいないんですが、実際話しに行けばもっとこういうふうにしたほうがいいんじゃないかというアドバイスをもらえそうなんで、今、知事さんおっしゃられたように、そういった機会を今後つくっていきたいなというふうに思いました。

【長野県知事　阿部守一】

やっぱりいろいろな世代の人が、ちょっとこのタウンミーティングも、総合計画をつくるのに実は若い人だけという場もあるし、今日みたいに年齢層関係なしというやり方と実は両方やってきたんですけれども、私はやっぱり多世代のほうが実はいいかなと。何か若い人たちだけ集めると何か似たような話にしかならなくて、やっぱり多世代の人でやったほうがお互いにわかり合えるということもあるし、お互いの見えている問題意識がちょっとずつ違うんで、そういう意味では若者会議が主催でいいから、多世代の場をつくるといいんじゃないかと。

【進行役　鷲森秀樹氏】

多世代の場、本当、今、そう思いましたので。若者だけで集まっていると若者チックになってしまって、結局。今、こういった世代の方がいっぱいいると、そう思っていたんですねとか、そういう気づきがかなりあって、いつもの会議より、より議論が深まっていく気がしています。

【長野県知事　阿部守一】

よろしくお願いします。あと、新しいライフスタイルのところで、例えば地域のいろいろな役員とか役割って、この間も同じような話が出たんですけれども。そこで出たのは何というか、もう一回、地域の人たちがやらなきゃいけない役割のあり方というのをもう一回整理したほうがいいんじゃないかと。例えば飯山市で、地域にどんな役職があるのか私はわからないですけれども、もう一回そういうのも見直して、やっぱり昔からやっているこれはこれからも維持していこうというものと、それから、むしろこういうのはもうやめていこうとか、新しくこういうことをやっていこうとか、本当は何かそういう地域社会のあり方というのも、特に新幹線もできて、移住したい人たちも傾向的に増えてきている状況の中ではそういうことも、これは来る人だけのためじゃなくて、住んでいる人たちにとっても本当はやる必要があるんじゃないかなと思います。

それから、これは行政もかかわる話ではありますけれども、地域で県も関係している、例えば民生委員、児童委員さんとか、いろいろな役職があるわけですよね。そこに暮らしている人たちが本当に何を必要としているかという観点から本当はもう一回考えるべき、民生委員、児童委員をなくしてしまえという話ではなくて、どっちかというと、何

かこういう役職というのは、全国津々浦々、同じなわけです。でも多分、地域にとってやらなければいけないことというのはもちろん地域福祉のこともあるけれども、実は例えば移住者を受け入れるのならもっと地域で移住者ウエルカムという姿勢を出すのなら、何か移住促進委員会をつくって移住促進委員がいたほうがいいんじゃないかとか。そういうときに、うちの地域に住んでいる人たちの中で、どういう人たちがいてどんな経験があるのかわかれば、ではこういうことは何々さんにやってもらったらいいのかなという感じになり得るんじゃないかと思うんですよね。

何が言いたいかというと、今、小諸に住んでいて地域の会合とか、時々顔を出したりしますけれども、例えば道普請をするとか、草刈りをするとか、私はほとんど役立たないです。周りの農家の人たちも、さっきの雪おろしと同じで、私よりよっぽど効果的・効率的な手法をマスターしている人たちが山ほどいるんで。多分、そういう分野では、私はほとんど貢献できないんですけれども、ただ何かちょっと、例えば移住促進の仕組みを考えるみたいなことを地域で考えてくれれば、そういうところは多分、私はもっと活躍できると思います。これは別に私だからということではなくて、さっきの人それぞれ経験とか能力が違うんで、その地域で、この人はもっとこんなことをやれるんじゃないかなということで発想していけば、昔からこれとこれとこれしか役職がなかったから、もうずっと未来永劫それだというんじゃなくて、新しいニーズに地域が応える上で、そこに住んでいる人たちの能力を生かしていったり、あるいはもっと言うと、そこにたまたまこんな人が暮らしているから、この人を中心に何かこんなことをやったらもっと楽しいんじゃないのとか、もう少し地域のあり方というものを柔軟に考えていってはどうかなというふうに思っているんですけれども。そこのチームの皆さんどうですか、どんな意見が出ていたんですかね。

【参加者】

飯山の隣の中野市から今日お邪魔している者なんですが、今、阿部知事のお話を聞いたり、今日、いろいろ意見を聞かせていただいたんですが、ちょっと２点、伝えたいことがありまして。まず地域行事、確かに多いなと思いまして、やはりちょっと私の地域も田舎で、お父さんが実際、地区の行事とか取り仕切る会計職をやっているんですけれども、本当に普通の仕事を平日やって、休日に地区の集まりのための資料をつくっているんですけれども、趣味、お父さんは山登りが好きだし釣りにも行きたいけど、やっぱり地区の行事が多かったり、上の人たちからいろいろ仕事を振られちゃうみたいですごく忙しそうなので。

なので、ちょっとこれで言いたいことの２点目に移るんですけど、地域を変えるというのは、今日いろいろな意見が出て、さっきも雪堀大会みたいなの、あれやるとしたら自分で企画とか、それか若い人たちにこういうのを一緒にやらないかと声をかければ実現することができると思いますし、さっきの高校生の意見も、今日、飯山の若者会議のメンバーの方々、私も知っているんですけれども、すごくいい人たちで、もしかしたらもう何か交流もあるかもしれないんですけれども。そういったところのつてを使えば、いろいろ地域の人たちとつながりを持てると思うので、行動に移すこと、人任せじゃな

くて本当に自分から動くことというのは大事だなと、今日の会で私も学びました。
　なので、私が多分、中野市のとある地区の会計職とかそういうのをやる機会、あるかもわからないんですけれども、でも、もしこの中にいる人たちでそういう役職、何か地区の上のほうにいるということだったら、若い人たちというのはこういう生活をしていて大変なんだなというのをちょっと知ってもらって、少しでも負担を軽くしたり、やっぱり維持できないような行事だったらちょっとずつやめていこうかというのを、やっぱり時代も変わっているので考えていったほうがいいのかなと思います。今日、集まった中からでも動き出すことが大事だなということを感じました。

【長野県知事　阿部守一】
　何か自治会の話し合いみたいなことになっていて、でも本当は、自治会とかでこういう話をもっと積極的にしたほうがいいと思うし、やっていることが全部要らないとか無駄だとも思わないんだけれども、多分、納得性が低いままやっている人たちが多いからそういう話になるんだと思うんですよね。
　やっぱり自分たちの地域はやっぱり誰かに任せるんじゃなくて、自分たちでよくしなきゃいけないというのは、多分、皆さん共通認識はあると思いますけれども。ではそれを誰がどういう形で対応すべきかという部分が、結構、前例踏襲型になっているんで、そうすると何か、毎年、毎年、同じことを繰り返しては、新しく入ってきた人は、今までこうやっていたからあんたやってよという話になると、非常に納得性が低いんで。毎回、みんなで話をして、もっとお互いの理解を深めてやったほうが、実は同じことをやるにしても、もっと効率が上がるかもしれないし、実はもっと新しい、もっとポジティブなこともできる可能性があるんじゃないかなと。
　ただ、私は行事が多過ぎというのは、そこの地域の状況によっても違うんだと思いますけれども、多過ぎるというよりは、多分、納得感が低いまま参加していると自分が参加している意味がわからないので、こんなのやらないほうがいいという話になってしまっているんじゃないかなというふうに思って、多分、そこはコミュニケーションがやっぱりまだ少ないのかなというのが私の感覚ですね。
　それからあと、働き方の話もありましたよね、働き方。この話は非常に重要だと思っていて、まさにこういうことは県がしっかり考えなければいけない話だと思います。
　長野県は、今、人生二毛作社会の実現ということを言っていて、あんまりみんなに広がってないんですけれども。人生100年時代で、例えばさっきも、私、知事をやめたらとか言いましたけれども、何か会社勤めしてリタイアしたら、それで何か一つ人生区切りがついてしまったみたいな話じゃなくて、やっぱりいろいろなことにまたいつでもチャレンジできるような社会にしなければいけないというので、人生二毛作と言っているんですけれども、これ三毛作でも四毛作でもいいんですけれども、そういう社会にしなきゃいけないなというふうに思っているのと、それから一人多役。日本の社会は、世界もそうですけれども、経済成長をさせていく上ではどんどん効率化してきました。どんどん効率化していく過程で、もう極限まで分業体制を突き詰めてきたわけですよね。要は、一人の人がいろいろなことをやらないで、もうあなたはこの部分、君はここだけや

ってと、さっきの行政の縦割りなんかまさにそうだと思いますけれども、あなたは福祉の中でもこの部分だけやれというから、県民の皆様方が県職員に話をすると、いや、ここは私の責任ではないとか、縦割りでという話になってしまうのは、分業を極限まで突き詰めた形で県が仕事をしているからだと思います。

これは別に県だけではなくて、どこの組織でも同じような話になっているんで、人口が右肩上がりで増えていくときはどんどん人も増えるので、分業化して経済効率だけを優先すれば、特定の分野にすぐれた能力を持った人たちが集まったほうが物は効率的にできるんですけれども、やっぱりだんだん人口減少社会になっていく中で、一人の人間がたった一つのことだけやるということではなくて、一人の人間がやっぱりいろいろな役割を果たしていく社会のほうが実は健全だし、より自分の居場所とかやりがいというのを見つけるチャンスが増えるのではないかなというふうに思っています。

そういうことで、例えば働くだけじゃなくて地域社会でも活動する。あるいはさっき学校のボランティアの話もありましたけれども。学校ももっと地域の人たちが積極的に参加してもらえば学校にとってもハッピーだし、多分、私は地域社会で草刈りをやるより、学校の何かを手伝ったほうが私は自分の能力を発揮できるんじゃないかと思うんで、そういう意味で、一人の人間が一つのことをやるだけでなくて、いろいろなものに参画できる社会にしていく必要があるんだと。

働き方も、まさにさっきお話があったように、長野県は、夏は農業、冬はスキー場とか、そういう働き方を実際にされている方がもう大勢いらっしゃるんで、そういうのは実は都会では絶対できないんですね。私が感じているのは都会の働き方・暮らし方というのは、一つの組織に属して、そこのために24時間365日、自分のパワーを投入しないとなかなかやっていけない社会が私は都会の暮らしだと思っていて、地域社会なんかほとんど見向きもしないです、都会の人たちは、そういう人もいますけれども、総じて言えばそんなところまでやっていられないと、そんなものは地元の市町村に何とかしてくれという話になってしまっているんで。

それを考えると、実は一人一人がいろいろな能力を持って、活躍できる社会をつくっていくことができるのは、東京みたいな大都会じゃなくて、この北信地域のような、衣食住も接近しているし、地域の暮らしもしっかりしているし、そういう地域のほうが実はこれから求められる社会像に近い地域だというふうに思っています。

ちょっとまた皆さんと一緒にそこは考えて行きたいなと思いますので、よろしくお願いします。いいですか。

Ｂグループの学びなんですけれども、まず下高井農林の話で、今、学びの改革ということで、教育委員会が高校をどうしようかという話をやっています。具体的な部分は教育委員会にやってもらわなければいけないんで、私があんまり踏み込んだ発言をしてはいけないと思っていますが。

私が教育長なり教育委員会と話しているのは、学びの改革というのはぜひポジティブな改革にしていこうと。何ていうか、もちろん子どもの数が減っているので、私は一定程度、学校の統廃合は避けられないというふうに思っています。ただ、人口が減るから撤退的に縮小するのではなくて、統合してもやっぱり今までの学校よりもこういう形で

よくなっていると、そういうこともしなきゃいけないし、統廃合しない学校の中身も未来志向で変えていかなければいけないだろうというふうに思っています。

そういう意味で、さっきお話しいただいたような話はいずれもポジティブな話でいいなと思って伺っていたんですけれども、まず全国募集ですよね、全国募集。一足飛びに全国募集は難しいところももしかしたらあるかもしれないんですけれども、現に白馬高校は、国際観光学科をつくって全国募集も始めました。これは地元の白馬村・小谷村にも協力してもらって、全国募集すると子どもの寮が必要になってくるんで、その宿舎部分はちょっと地元で考えてという話で、市町村とも連携してそういうことをやっています。

私は学びの場、高校も含めた学びの場というのは、実は多様性が大事だと思います。画一的な、ちょっとどうしても文部科学省が教育の中身の根幹を決めてしまっているので、なかなか多様になりづらいところがありますけれども。たださっきも、例えば自閉症の人とか発達障がいの子どもたちのお話がありましたけれども、人の持っている能力はさまざまなんで、さまざまであるということは学ぶ場もさまざまなければいけないんだと思っています。そういう意味で、私は学校のあり方というのは、ぜひ多様性を追求してもらいたいなと教育委員会には思っていますし、これ教育委員会が設置をする公立学校だけではなくて、実は長野県内、幾つかの地域では自分たちで学校をつくってしまえと、幼小中一貫とか、あるいはインターナショナルスクールとか、そういう動きをしている人たちも、ほかの県に比べるとうちの県は多いなと思っていますので、そういう多様な学びの場ができることは、基本的に応援をしていきたいなと思っています。

例えば発達障がいの子どもの話がありましたけれども、長野県に実は、発達障がいの子どもたち・若者たちに来てもらって学ぶ学園があります。正式な学校ではないですけれども。そこはギフテッド教育ですね、ギフテッド教育。要は、さっきお話があったように、実はいわゆる発達障がいだと言われている子どもであっても、すごい能力を持っている子はいるんですね。日本の教育というのは、さっき言ったように、何となく国語・算数・理科・社会のできる子どもが頭がいいといったような話にどうしてもなりがちなんで、何かすごく一つのことに秀でていてもあんまり認めてもらえない部分があります。ただ、その学園はとにかく能力のでこぼこがみんなあるけど、伸びるところを伸ばそうということでやってもらっていますので、私はぜひそこの手法というのはもっと県内に広げていきたいなというふうに思っていますし、発達障がいであろうがなかろうが、全ての子どもたちがやっぱり強みを持っているんで、私はこれからの教育は伸びるところをうんと伸ばしていく教育にぜひしていきたいなというふうに思っています。

よく全国学力テストの順位とかと出ていますよね。ああいうのはマスコミも報道するし、結構、皆さん気になりますか、長野県の学びはあの辺ぐらいだなとかという感じで。私も気になるんです、気にならないっていったらうそですけれども、でも、私、教育委員会には、あれで一喜一憂しないほうがいいんじゃないかと言っていまして、あれというのは平均ですからね、平均。平均層の子どもが多少、１点や２点、上へ行くか下へ行くかということで、別に世の中がひっくり返るほど大変な話ではないと思っています。むしろ私は大事なのは、うんと伸びる子が能力を伸ばせているのか、あるいは、何てい

うか、全然学びに興味を持てなくて、置いていかれている子どもをどれだけ少なくするかということのほうが問題で、平均点が１点、２点上がったり下がったりということは、そんなに本質的な問題ではないんじゃないかなというふうに思っています。

ただ、学力テストの分析をすると、やっぱり上位の都道府県は、それなりにほかの県の成績の出方と違っているなと。幾つか上位のところは特徴的にずば抜けている部分があるんで、そういうところは学んでいかなきゃいけないなというふうに思っています。ちょっと余談になりましたけれども。そういう意味で、学びの場はぜひ全国的な視点で考えていかなきゃいけないと思っています。

あとは大学ですね。大学は県立大学をつくりましたので、できれば、北信からは新しい県立大学に通学できるので、最初は１年生を寮に入れてしまう大学ですけれども、まず志ある若者は県立大学に行けと皆さんは言ってもらいたい。ただ全国的に、今、知事会とかで議論して、これ国もそういう方針ですけれども、東京にあまりにも大学が集まり過ぎているので、私は、東京で大学の定員を増やすのは抑制してくれといって、多分、国はもうそういう方針です、国はそういう方針なんで、これからもっと地方に大学を呼び込んでいかなければいけない部分もあると思います。それはまた、さっきも言ったように、どこの大学でも何の学部でも来ればいいという話じゃないと思うので、ぜひ何かそういう、この地域にはぜひこんな学びの場が必要だというものは、我々県もちょっと考えていきますけれども、ぜひ考えてもらって。なおかつ、いわゆる今までの大学だけじゃなくて、職業大学みたいな制度を国が新しくつくりますので、例えば県でも林業大学校とか農業大学校とかありますけど、林業大学校は新しい仕組みの大学に持っていけないのかというふうにも思って、いろいろ学びの改革は検討しています。ぜひ地域でもそういう議論をしてもらえればありがたいなと思います。

それから学校のあり方として、ちょっと高校生がいるから、もっと高校がどうなったらいいかというのを、もしあったら教えてもらいたいんですけれども。地域の人たちがもっと参画してもらいたいなというふうに思っていますし、学びのあり方というのももっと変えていかなければいけないと思っているんですけれども、高校生は２人ですか、参加しているのは。今、自分で学んでいて、もっとこういう学校だったらいいなというものは何かありますか。

【参加者】

今、お話を聞いていて思ったのが、さっきも言っていたんですけれども、高校生が高校の中の人とだけしかかかわる機会がないというのが問題だと思っていて、実は先生たちも結構忙しくて、ほかの地域の人とかかわる機会がないと思っていて。

せっかく飯山高校という「飯山」という名前がついている高校なんだから、飯山の人たちと話す機会というのがあったほうがいいなと思っていて、そうすれば何か、飯山高校は進学じゃなくて就職する人もいるので、飯山の人と話す機会が多ければ、地元にこういったことがあるんだなというのも気づけて就職する、そういう人たちが飯山に残る機会にもなるのではないかなと思いました。

地域に根ざした学校になるように地域の人と交流する機会を学校として設けていった

ほうがいいんじゃないかなと思いました。

【長野県知事　阿部守一】
　ありがとう。

【参加者】
　今も言っていたんですけれども、高校生と地域の人という壁を学校の学びの中でなくせればいいのかなと思います。

【長野県知事　阿部守一】
　そうだね、ありがとうございます。
　日本の学校というのは結構、放っておくと閉じた組織になりがちになっているんで、話し合って、やっぱりもっと開かれた場にしていかなければいけないだろうなというふうに、私は基本的に思っています。そういう意味で、例えば信州型コミュニティスクールというのをつくって、なるべく小学校・中学校の地域の人たちに参画をしてもらいたいなと思って進めているんですけれども。加えて、ちょっとこの学びの改革でどんな学校にするべきかというのは、これからちょっと教育委員会の皆さんともよく話さなきゃいけないです。
　これ知事としてというか、私の勝手な意見で言えば、まず学校の先生が忙し過ぎです。忙しいということは、誰かがその忙しいものを担ってもらわなければいけないので、それにはやっぱり地域の人たちがもっと積極的に学校に来る。どっちかというと学校側、校長先生のスタンスによって、大分、違いがある部分もあるんで、もうちょっとその地域の人たちが学校に参画してもらうことが大事だなと思っています。
　それと同時に、学校の先生は学校の先生としてやるべきことを集中的に、やっぱり自分の能力も上げてもらうっていうことが大事なんだろうなというふうに思っています。それはやっぱり生徒としっかり向き合う、あるいは自分の専門の能力を上げて、子どもたちにしっかり教育してもらうと同時に、学校の先生というのは学びのプロフェッショナルなんで、私、さっき学びの県にしたいと思っていると申し上げましたけど、もっと地域に出て教える能力とか、教育の専門的な知見をもっと地域にも還元してもらえれば、逆に先生も、地域の課題とか地域の人たちがどんな問題意識を持っているのかということを肌で感じてもらえますので、これからの学校をよくしていく上では必要なんじゃないかなというふうに思っています。
　ちょっと仕組みを変えたり、県としてもお金がかかったりするんで、なかなか私が夢見ているようなふうにはすぐには行きづらいところもありますけれども、しっかり変えていく必要があるというふうに思っています。
　どのグループもそれぞれ重要なテーマなんで、少しずつコメントしながら対話をさせもらったんですけれども。あと、皆さんのほうからちょっと、そんなことを言っているけれども、もっとこっちのほうのいいとか、そんなことを言っているけど、もっとこういうことを考えろとか、ちょっとここは違うんじゃないのかとか、もうちょっとこんな

ことが必要なんじゃないのとつけ加えたい人、どうぞ、はい。

【参加者】
　若い人たちの意見を聞く機会って、実は飯山、多いほうなんじゃないかと私は思っていました。例えば若者会議があって、鷲森会長さんなんかあらゆる場に出て、いろいろ意見を聞かれたりとか、本当にいっぱい協力してもらってありがとうございます。そのほか、商工会議所に若手のグループ、創見塾というのがあって、そういうところで一生懸命考えているグループもあったり、あと地域でお祭り、先週から来週ぐらいにかけてたけなわで、そういうお祭りの稽古の中にも若い人たちが集まって語り合う機会というのが相当あるんですね。それに消防も割と若い人たちが集まって、地域のことをああだこうだと語ったりということも結構見られます。
　そういう場で語ったことをしっかりと風通しよく伝えていくことが大事で、そういう場として、例えば今日もこんなすばらしいイベントがあるんですが、集落や地区の懇談会があると、それこそ市の幹部職員の皆さん、いつも行って聞くという機会もつくって、そういうのがあると、ちゃんと市長、副市長、総務部長と、みんな行ったりしています。ですから、そういうのをもっともっと活用して、地域のことをみんなで、どうしたらよくなるのかということをいつも考えて、それを伝えようということをみんなで決意するだけでも、大分、違ってくると思うんですね。
　あと、市の総合計画の会議で、飯山高校の生徒会長、副生徒会長男女各１名、３名呼んで、聞く機会も市役所でありました。実はそういう機会はいっぱいあると思うんで、生かせる機会をもっと活用すれば、いい地域ができていくというふうに感じました。

【参加者】
　私、野沢温泉から来まして、飯山若者会議でアクティビティー部会に参加させていただいております。野沢温泉村でスキーとアウトドアアクティビティー、自転車を中心にしたアウトドアショップを経営しております。飯山の若者会議に参加させていただいている理由としては、2014年のソチオリンピックに出場させていただきまして、そういったこともあって、飯山の若者会議にアクティビティー部会として参加させていただいているんです。
　私がここに来て発言したかったのは、学びの推進をすごくお願いしたいなと思っていて、私がスキーと自転車を中心にしたアウトドアアクティビティーの事業を通して、長野県が本当に世界で、自信を持ってアウトドアアクティビティーリゾート地として本当にすばらしいと本当に思っておりまして、それを実際、自分たちがその地域と一緒に連携をとりながら、そのフィールドを生かせるような活動をしたいと思ったときに、ソフトが足りないということにぶち当たりました。というのは、すごくたくさんすばらしいフィールドがあるのにもかかわらず、そこにお客様をガイドできる人が非常に足りません。その中で、今、私たちは、自分たちの事業の中で、アルバイトから子どもたちを育て、育ってきたころにやめてしまうようなことが起きています。きっといろいろなところでそうなのかなと、アウトドアアクティビティーだけではなく、いろいろな食、農業、

いろいろな部分もそうなのかなと思う中で、やはりその専門学校というか、この地域を発信できるような、そのソフトとして育てられるような学校をにつくっていただきたいと思っています。

その中に、先ほどのお話もそうなんですが、地域一体として、そこに来てくれる子どもたちを一緒になって育てたいということも思っていて、自分たちの事業の中でも、そういった学校としてリアルにアウトドアアクティビティーをやっているプロのガイドが生徒たちに教えることができれば、きっとその地域の子どもを教えられると思いますし、アウトドアアクティビティー自体もすごく身近な部分に感じていただける機会になるかなと思うので、実際、その専門学校みたいな、そういう学びの場ができることが非常に望ましいですが、それが難しいのであれば、その地域だったりにいるそのプロたち、アウトドアアクティビティーのプロたちは飯山の周辺にすごく集まっています。今、日本の中で聖地になってもおかしくないぐらいのガイドさんがいます。

なので、そういった人たちとのコミュニケーションをとれる機会を、今、ここの若者たちととりたいと思っている人たちはすごくたくさんいますし、そのアウトドアアクティビティーだけじゃなくて、雪おろしとか、農業というのもイベント化して、そのイベントをすることでどういうリスクがあるのかということを高校生たちと一緒に考えることで、やることで終わりじゃない、そのためのリスクが発生することも子どもたちに教えることができると思いますし、そういった知識は、今、長野県、非常に自然災害が多い中で、力添えができるような子どもたちを育てていくことができるじゃないかと。アウトドアアクティビティーをフックにして、そういうことを思っているということを伝えられればなと思って来ました。

【長野県知事　阿部守一】

はい、どうもありがとうございます。私も、長野県の持っている資源を生かす仕組みが少ないなと思っていますので、そういう意味で、観光ではアウトドアをもっと振興しなければいけないと思っていますけれども、そのためには、ガイドできたり、安全確保できたりとか、そういう人材をしっかり育てなきゃいけないというのは、全く私もそのとおりだと思うんで、ちょっとそこは県が直接何かつくるよりは、むしろ何かいろいろな学びの場でそういうことをやってもらえそうな人たちを探したほうが早いのかなという気もしますけれども、ちょっとまたそこは考えます。考えますし、ぜひ皆さんが集まってつくってもらってもいいですけどね。さっき言ったように、いろいろな学校をつくりたいという動きが県内にはあるんで、むしろ、学校のつくり方をいろいろな人に教えるということのほうがいいかもしれないなと、今、お話を聞いていて思いました。

どうすれば学校ができるか、やっぱりこれ、大学も高校みたいに、いわゆる学校教育法の学校もあれば、専門学校もあれば、そこまでいかない学びの場もあれば、いろいろなレベルの話がありますけれども。そういう場をやっぱり、いろいろな人たちが主体的につくってもらえるようなことが、学びの県づくりにもつながるなというふうにも思うので、お話のアウトドアの指導者というのは私は重要だと思っています。県は、今、森のようちえん、信州型自然保育の認定制度をつくりましたけれども、幼稚園・保育園か

ら先をどうするかとか、結構、課題もあることなので、そこはまたよく考えるようにしたいと思います。ありがとうございます。

【参加者】
　最後にちょっと知事にお願いというのがありまして、お客様は来るんですが、受け入れ体制の宿がなかなかうまくできていない。知事、ご存じのように、これ信州ＤＣとあわせて、長野でも多言語コールセンターがとりあえず４月１日から３月31日まで開設していただき本当に感謝しています。
　できれば、何とか４月１日、新年度以降もそういうように予算をつけていただければもっともっと、我々、観光人は訪日外国人を受け入れできるので、ぜひやっていただきたいと思います。

【進行役　鷲森秀樹氏】
　ありがとうございました。では最後に知事からコメントをお願いします。

５　知事総括コメント

【長野県知事　阿部守一】
　はい、ありがとうございます。多言語対応はこれから重要だと思ってはいますので、ご意見は受けとめて考えるようにしたいと思いますので、ありがとうございます。
　今日は医師確保の話、観光の話、ライフスタイルの話、働き方、あるいは地域社会の問題、それから学びの話とバラエティーに富んだお話を聞かせていただいて、また幾つかの具体的なご提案をいただいたので、私の頭の中にインプットすると同時に総合政策課の職員も来ているんで、しっかり、生かせるものは総合計画の中に生かすようにしていきたいというふうに思います。
　ただ、これさっきから言っているように、もう一回、皆さんに重ねてお願いですけれども、地域でできることはまだいっぱいあると思います。私に言わなくても、今、出た話のほとんどは、私が聞かなくても皆さんが主体的に行動してもらえればできる話が多いなと思っていますので、ぜひそういうところは、皆さん主体的にやっていっていただきたいと思います。その中でも、例えばどうしても県がやらなければいけないことも今の話の中でも幾つかあると思うんです。医師確保も確かに地域の皆さんに頑張ってもらいたいところもありますけれども、そうはいっても県が本腰を入れて取り組まなければいけない話だと思っていますし、あるいは学びの改革も、どうしても仕組みとか制度とか教育の分野、結構、複雑になっているので、勝手に学校をつくってという話だけでは済まないのも山ほどあるなというふうに思っています。
　そういう意味で、今日、皆さんからいただいたご意見は私の頭の中でしっかりそしゃくさせていただいて、皆さんの思っている方向に進むように、生かしていくようにしたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。
（以上）